

# 未来塾ながの新聞 in 韓国

編集・発行：信濃毎日新聞社



県教委の高校生向けキャリア教育「未来塾ながの」で昨年11月17～23日、県内の高校生46人が韓国を訪れました。首都ソウルを中心に、ホームステイや学校訪問などを通して同世代と交流した生徒たち。東信地方の生徒たちが書いた記事を紹介します。



**韓**国への研修で一番印象に残ったのが、韓国の伝統衣装の体験です。私は韓国ドラマが好きで、その中で何度か見たことがありました。しかし、見るのと着るとでは全然違いました。まず着てみた思ったことがとにかく、軽い、楽です。

日本の伝統衣装といえば着物ですが着物は着るのがむずかしく、重い。しかし、韓国の伝統衣装チマ・チョゴリを着てみて、伝統衣装に対する堅苦しいイメージが消えました。

また韓国の伝統衣装にはそれぞれ色、形によって意味があることがわかりました。

まず未婚の女性の服装はチマが

イメージ変わった伝統衣装

黄色、チョゴリが赤、そして髪を上げずに結えるという服装です。そして外に出るときには顔を隠して出ます。

既婚の女性はチマが緑色になり、髪の毛を上にあげます。また身分の高い女性になると手を隠すチマになります。

男性も未婚、既婚、身分が高い男性と服装が分かれています。男性も扇子などで顔を隠すということもわかりました。昔の韓国の人々は恥ずかしがり屋なのかなと思いました。チマ・チョゴリに、こうした深い意味があると知り、とても感動しました。

(高松梨沙・上田高校1年)

**韓**国研修では地元の高校生と交流し、そこに通う高校生の家にホームステイさせていただいた。

私のホストファミリーの子の名前は、パク・チャンヒさん。私が「アニョハセヨ」とあいさつをすると、パクさんは「アニョハセヨ」と笑顔であいさつを返してくれ、私の緊張は一気にほぐれた。

パクさんは、日本語が話せなかったため私たちは英語でコミュニケーションをとることにした。その日は、パクさんファミリーが私を韓国の店やカラオケ店へ連れて行ってくれた。

店ではパクさんの友人も一緒だった。みな日本のことに興味があって、私にさまざまな質問をしてきた。また、私に韓国の歌を聞かせてくれたりもした。

私はパクさん宅に行き、ファミリーと歓談をして、その後パクさんと2人で話す機会があった。パクさんは「日本と韓国は今関係が悪いと言われているが、私は日本が好きだ。日本と韓国は近いからこそ仲良くするべきだと思っている」と話してくれた。

私はこの言葉にとても安堵した。私は当初、韓国に行くこと自体、そして韓国へ行ってからのことを考えると正直、不安を抱いていたからである。しかし、韓国の同じ高校生が日本のことを好きだと言ってくれ、私の韓国への印象はガラッと変わった。私は、これから将来、日本と韓国の関係が「近くて遠い国」ではなく、本当の意味で「近い国」になればと感じた。

(櫻井陸・小海高校2年)

素顔の韓国ファミリー



**1**月21日に真乾高校を訪れました。私がとても印象に残っているのは韓国人の積極的さです。一緒に授業を受け、自己紹介をしたところ、多くの質問をもらいました。日本だったらこんなに質問してくれただろうかと思いました。

私とペアだった女の子に「どうして韓国人はこんなに積極的で勉強熱心なのか」と聞くと彼女は「韓国では勉強がとても大事にされている。人前で話せるようになるため、国語などの教科を生徒が授業するのは珍しくない」と言いました。

韓国と日本での、勉強への意

志の違いが見えた気がしました。今の日本是国内で何でも手に入る時代です。そこにはいい面もあれば悪い面もあります。大きな目標を持つ若者はだんだんと減っています。大きな仕事をしなくても、安定した暮らしが送れるからだだと思います。

韓国人の熱心さを見て自分も頑張ろうと思いました。そして、日本と韓国は争うのではなく、お互いに高め合うライバルであり友達でもあると感じました。

韓国の高校生たちと、これから連絡を取っていきたいと思います。

(江川明美・上田染谷丘高校2年)

ライバルであり友達



**今** 回の研修旅行では、日本大使館への訪問が大きく印象に残った。大使館は、ビザの発行や留学生の支援、青少年の交流などの仕事をしている。外交官は首脳会談の通訳をすることもある。

現役の外交官から話を聞き、最も印象に残ったのは次のような言葉だ。「私は海外で何年も仕事をしてきました。家族と一緒に海外に渡ったり、急に北朝鮮にいくことになったりと大変なことも多くありました。外交官の仕事の99%はつらいことで、うれしいことは残りの1%です。でも、その1%があるから、この仕事を続けています」

日韓関係悪化のニュースを耳にして心を痛めたり、歴史的なあつれきのある韓国で日本の文化を広報したりする苦労は私の想像をはるかに超える

### 外交官の仕事に触れて

だろう。

外交官の仕事のやりがいとは、プロジェクトが成功した時だという。現に北朝鮮と日本の会談が成立した時の達成感について話す外交官の方の表情は生き生きとしていて、とても印象深かった。大使や総理などの要人と会えるのも仕事の魅力だという。

両国の国民が友好的な関係を築くため日々努力をしている外交官。その姿勢を生で見て素直にかっこいいと思った。

私は将来の進路として海外に出ることを考えている。そのためには日本のことを知り、社会に出て本当に役に立つ力を付ける必要がある。そのことを深く実感させてくれたこの機会を生かしていきたいと思う。

(小林茉樹・上田高校1年)



**真** 乾高等学校の2年生、金康成(キム・ガンソン)くんの家にホームステイして感じたことがあった。それは、人の心の温かさでした。

金君のお父さんは日本語をべらべらにしゃべれて、日本が大好きだそうです。金君も日本の大学を目指して、日本語を勉強しています。そんな2人が僕を温かく迎えてくれました。

夕飯時、金君のお父さんがこんなことを聞いてきました。「日本での韓国の印象はどうか?」という質問でした。「日韓関係が良くないため、日本では韓国に対してあまりいい印象を持たない人がいる」と話しました。すると、関係が悪いのは国の表面だけだ。国民は若い者ならなおさら手

取り合って、隣人の国同士仲良くやるべきじゃないのか、と力強く話してくれました。

日本人の中には、韓国に行ったら戻って来られないとか、嫌な目に合うと話す人もいます。でも実際に行き、話を聞いてみると、日本で想像しているのとは違う答えも返ってくるのではないかと思います。

今、日本と韓国では、お互いの良さが見失われてしまっています。政治のあり方にとらわれるのではなく、互いに手を取り合うことで本当の良さが分かり、日本の最高のパートナーになれるのではないかと思います。

(鶴島直央・上田高校1年)

### 互いの国を分かり合うために



**訪** 韓研修3日目の午後は、世界文化遺産でもある水原華城へ向かいました。ここでは、地元の梅香女子情報高校の生徒と敷地内を散策しました。

韓国を訪れた私たちにとって初めての交流活動。水原へ向かうバスの中、私は現地の生徒と直接話ができる期待感と、自分の意思をうまく伝えられるかという不安の入り混じった複雑な心境でした。

しかしそんな不安をかき消してくれたのが、梅香高校の生徒ウンハとの出会いです。冷え込む華城を歩きながら彼女と話をすることで、私たちには共通点がたくさんあることがわかりました。誕生日が同じであること、英語が好きであること、そして、お互いの国にとっても興味があるということ。

「一番行ってみたい国は日本」。ウン

### 心の距離を縮める出会い

ハは日本語サークルに所属していて、いつか日本へ行くのが夢だと話してくれました。特に日本の食文化に関心があり、勉強中だそうです。同じく私も、高校で韓国語の授業を受けており、韓国の伝統文化や芸能に興味があります。

私とウンハ、今まで見てきた景色は違っても、互いの国のことを知りたい気持ちは一緒です。きっと同じことを考えている学生はどちらの国にも多いはず。

大切なのは答えの出ない問題や誤った情報に振り回されないこと。歩みよる努力をすれば、たとえ住む場所は遠く離れていようと、心の距離は縮めることができます。そのことを教えてくれたウンハとの出会いに感謝しています。

(宮入千尋・上田染谷丘高校2年)

